



自然を愛し 人にやさしいまちづくりを

置戸町長 井上 久男

新年、明けましておめでとうございます。
町民の皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より町政の推進に格段のご理解とご協力を賜り、深く感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、町内の青年有志が中心となって7月に開催した「オクト・グリーン・フェスティバルセカンド」は、町内外から約4千人の来場者であられ、町を大いに活気づかせてくれました。

また、幼保一元化施設と子育て支援機能を備えた子どもセンター「どんぐり」が開園10周年を迎えました。次代を担う子ども達が、より充実した環境の中で健やかに成長できるよう運営してまいります。

町の発展と女性活動の中心的存在である女性団体協議会が創立70周年の節目を迎えられました。これからのますますの発展と地域を支える原動力として活躍されていくものと期待しております。

一方では、昨年6月に発生した大阪府北部地震や7月豪雨など、想像を絶する災害が全国で相次ぎ、中でも、昨年9月の最大震度7を記録した北海道胆振東部地震においては、厚真町ほか道内各地で甚大な被害が発生しました。これらの災害に遭われ、尊い命を失われた方々に対し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

さらに、この地震の影響によって、北海道ほぼ全域が連鎖停電するという「ブラックアウ

ト」が発生し、道内産業や経済に深刻な被害をもたらしました。

本町においては、所有する全ての発電機を使用して、役場や福祉施設などに最低限の電力供給を行いつつ復旧を待っておりましたが、灯りが無い不安な一夜を過ごし、改めて自然の猛威と災害対策は行政の力だけでは十分ではないことを痛感させられました。やはり、自分の身は自分で守る「自主防災」が基本となることから、地域における組織化に向けた取り組みをさらに進めたいと考えております。

昭和から平成に元号が変わって以来31年が経過しましたが、慣れ親しんだ平成も、今年4月をもって幕を閉じ、新たな元号が施行されることとなります。

現在、第6次置戸町総合計画の策定を進めておりますが、今後10年間のまちづくりの総合的な指針を定めるものです。少子高齢化が進むなかで、高度化・複雑化する行政ニーズにしっかりと対応できる計画を作り上げたいと思います。

また同時に、平成22年度から進めてまいりました第5次置戸町総合計画の総仕上げの年でもあります。自然を愛し、人にやさしいまちの実現に向けて取り組んでまいりますので、皆さまの一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びにあたり、町民の皆さまが健康で幸せな年でありますよう、心からご祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。